

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	梅澤 早織
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Low Preoperative Psoas Muscle Mass Index Is a Risk Factor for Distal Cholangiocarcinoma Recurrence after Pancreatoduodenectomy: A Retrospective Analysis （術前の低 psoas muscle mass index は遠位胆管癌の再発危険因子である）
	掲載誌 World Journal of Surgical Oncology 2022; 20: 176-183
	主査 立石 敬介 副査 中原 一有 副査 伊澤 直樹
[論文の要旨・価値] サルコペニアは高齢者でしばしばみられる筋肉量の減少であり、様々な病態の予後に影響することが報告されている。消化器癌の領域でもその重要性は示唆されており、胆管癌もそのひとつである。ただし既報では様々な部位の胆管癌をまとめた検討が多く、疾患ごとの病態の違いを加味した検討は必ずしも多くない。本研究は「膵頭十二指腸切除術が行われた遠位胆管癌の症例」に焦点を絞り、その早期再発におけるサルコペニアの意義を検討した。本研究では焦点を絞ることでサルコペニアが再発危険因子であることを明確に示し、次の予防への取り組みにつなげた点で意義のある研究である。 対象として当院における 88 例を後方視的に検討した。筋肉量として術前 CT から PSOAS MUSCLE MASS INDEX (PMI) を測定した。単変量および多変量解析により早期再発の独立した危険因子を検討した。 結果として早期再発 37 例と非再発 51 例の比較により、男性早期再発群の PMI は有意に小さく、単変量解析では分化度や N 因子と共に有意差を認めた。多変量解析では PMI とリンパ節転移がそれぞれ独立した再発危険因子として検出された。低 PMI とリンパ節転移の 2 因子の数で Recurrence free survival を検討したところ、因子数 0 群は中央値に達せず、因子数 1, 2 の群でそれぞれ 15.3 か月、6 か月と有意差をもって違いを示すことが明らかとなった。 本研究は術前の PMI が膵頭十二指腸切除術後の遠位胆管癌における独立した再発危険因子であることを明らかにした。今後サルコペニアに介入することで予後改善効果を得られるか、などの前向き研究にも発展しうることから、大いに意義のある研究である。	
[審査概要] 審査では、術後の再発形式や他の因子の影響についての質問、統計解析の手法、男女差の有無、PMI が再発に影響する理由となりうる分子機序についての考察、などの点について質問がなされた。発表者はいずれの質問にも自らの意見を述べ答えることができた。また今後の前向き研究についての準備状況や方法についても質問があったが、ハンドブック策定を行っているなどの具体的な計画、状況についても説明がなされた。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 本研究を発表者が主体的に行っていることが確認された。英語読解力は指定された英文文献の一部を和訳することにより評価され、十分な読解力があると判断された。	